

# 地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成16年度からすべての市立学校で学校評議員制度を導入し、学校外の評議員が学校運営に関し意見を述べ、校長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施しております。

また、平成19年6月の学校教育法、同年10月の学校教育法施行規則の改正により、学校評価に関しては、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられました。このことを受けて、各学校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題について、その改善を図っております。

ここに、平成27年度の各学校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」取組の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各学校園では、この報告書を参考にするとともに、学校園・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営の改善に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるようお願いします。

平成28年3月  
奈良市教育委員会

- 平成27年度は341名に学校評議員として奈良市の学校運営に参画していただきました。

〔奈良市立学校数：幼稚園29園 小学校46校、 中学校21校、 高等学校1校〕

評議員の置かれている学校実数

幼稚園29園 小学校38校、中学校16校、小中学校1校、高等学校1校

\* アンケート集計では、小中学校は中学校、高等学校とあわせて集計しています。

## 内容

### 1、学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】 .....	2
【設置されている学校評議員数】 .....	2
【学校評議員の再任の割合】 .....	3
【校長が学校評議員に求めた意見例】 [意見を求めた学校園数の割合] .....	3
【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】 .....	4
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】 .....	4

### 2、学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】 .....	5
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】 .....	5
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】 .....	5
【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】 .....	6
【学校関係者評価の実施について】 .....	7

### 3、学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】 .....	8
【学校評価をすすめる上での課題】 .....	9
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題】 .....	10
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】 .....	11

### 4、学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】 .....	12
----------------------------------------	----

## 1、学校評議員制度の活用

### 【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	本年度		備考
	人数	割合	
PTA関係	102人	30%	それぞれの項目は元経験者も含む。
民生関係	76人	22%	主任児童委員、児童委員
自治会関係	62人	18%	
学校支援	21人	6%	地域教育協議会、地域ボランティア
少年指導協議会関係	15人	5%	人権教育協議会、安全推進協議会など
教職経験者	13人	4%	
各種協議会	13人	4%	
地域活動関係	12人	3%	
一般	11人	3%	
社会福祉協議会関係	10人	3%	
公民館・施設長関係	6人	2%	
万年青年	0人	0%	

### 【設置されている学校評議員数】

学校評議員数	校種別の内訳（校数）					合計
	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	
8人		1校	1校			2校園
5人	3園	11校	2校		1校	17校園
4人	10園	22校	9校	1校		42校園
3人	16園	4校	4校			24校園
2人						0校園
合計（校園数）	29園	38校	16校	1校	1校	85校園
総人数	103名	163名	66名	4名	5名	341名

## 【学校評議員の再任の割合】

再任割合	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	合計
人数(人)	52人	99人	40人	2人	0人	193人
割合(%)	50%	61%	61%	50%	0%	56%

## 【校園長が学校評議員に求めた意見例】〔意見を求めた学校数の割合〕

### 「地域の連携・協力に関すること」

〔幼：小:94.7% 中高:88.9% 全体:92.9%〕

- ・地域で決める学校予算・放課後子ども教室等について
- ・学校行事、学習活動、環境整備等の取組と(授業支援も含めた)参加協力について
- ・地域人材を生かした地域の教育力の発掘について(学校だよりの回覧等)
- ・地域と連携した特色ある取り組みへの理解
- ・ボランティアや地域の方々、施設などとの連携のあり方について

### 「幼児児童生徒の安全に関すること」

〔幼 小:94.7% 中高:72.2% 全体:87.5%〕

- ・通学路の安全対策について(登下校の見守り体制の強化・充実)
- ・警報発令時や社会見学等での下校時刻変更時のサポートネットの活用について
- ・登下校のマナー、自転車通学生の安全運転、防災訓練の実施内容、避難所としての運営計画の作成について
- ・新しい防犯ビデオの作成について
- ・運動会、サミットなど行事の安全管理について

### 「学校の目標としていることに関すること」

〔幼 小:86.8% 中高:83.3% 全体:85.7%〕

- ・小中一貫教育の課題について
- ・道徳教育の充実について
- ・目指す子ども像について。家庭教育の目指すところを示してほしい
- ・学校評価に基づいて学校教育活動を行っているかについて
- ・学校目標が適切か、また目標にぶれがないか等について
- ・学校の教育目標の育てたい子ども像の共有

### 「学校に対する評価に関すること」

〔幼 小:73.7% 中高:83.3% 全体:76.8%〕

- ・学校と地域がWIN-WINの関係になるために
- ・学校だよりの回覧などによる広報活動について
- ・地域が学校を評価することについて
- ・学校評価の分析について
- ・保護者アンケートの結果の見方について(質的な変化を見逃さないようにするべき)
- ・学校の実情(少規模校であるなど)に合わせた取組について
- ・アンケート結果の公表について

以下、「生徒指導に関すること」(全体:69.6%)「教育課程・教育内容に関すること」(全体 60.7%)、「学校施設・設備に関すること」(全体:51.8%)と続いています。

## 【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができている。	56%	60%	62%	69%	52% (幼稚園を含まず)	<b>67%</b>
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能しているとはいえない。あるいは共有できていない。	44%	40%	38%	31%	45% (幼稚園を含まず)	<b>28%</b>

## 【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】

- ・学習相談室・英会話教室が実施できた。
- ・主な地域団体の長の方々と職員とで地域懇談会を行い、情報交換ができた。
- ・管理職の校内巡視を定期的に行い、OJTを実施し、望ましい教師像を伝える。
- ・学校で発行している学校便り・教職員だよりを地域の会合で配布した。
- ・安全の取り組みが広まり、自治会が安全パトロールに参加してもらえるようになった。
- ・学校の施設・設備の老朽化している点をご指摘いただき、市への要望を適切に行えた。
- ・コーディネーターとの連携を強化し、各学年の体験的な教育活動に地域支援を取り入れた。
- ・実際にゲストティーチャーとして指導していただいた。
- ・登下校時の安全確保について全体指導や学級指導に活かした。
- ・計画的な補修等で美しく保たれていることをもっと保護者や地域に発信するために、通路の舗装工事の実施について学校便りに掲載した。
- ・子ども安全の日の見守り・集団下校訓練の引率・マラソン大会の安全確保。
- ・低学力傾向の生徒へのきめ細かな指導。
- ・給食の試食会を開催し、評議員・職員・PTAが交流する機会を設定できた。
- ・奈良市キャリア発表・英語チャレンジカップなど発表の機会を設け挑戦した。
- ・新たな受け入れ事業所を含め、今年度も全て都祁地域内の事業所で職場体験を受け入れてもらうことができた。

各学校で行われた学校評価をいかに年度末総括に反映させ、次年度の学校園づくりにつなげるかが、さらなる教育改善につながります。PDCAサイクルのAは学校園を変えるためのアクションです。それは全教職員が評価を共有することから始まります。

また多くの協力を得て出した評価を、子どもたちや地域の方々と共有することも、アクションを起こすために必要です。学校便りや学校ホームページなどでの公開も、非常に有効な方法となります。

## 2、学校評価の実施

### 【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
学校評価を進める 校内委員会等を組織している。	75%	79%	88%	87%	91%	<b>86%</b>
全教職員参加のもとで 学校評価を進めている。	89%	94%	93%	91%	96%	<b>88%</b>

[平成 27 年度内訳(校内委員会等の組織している。／全教職員が参加している。)]

幼：73%/90% 小：90%/84% 中高：89%/83%

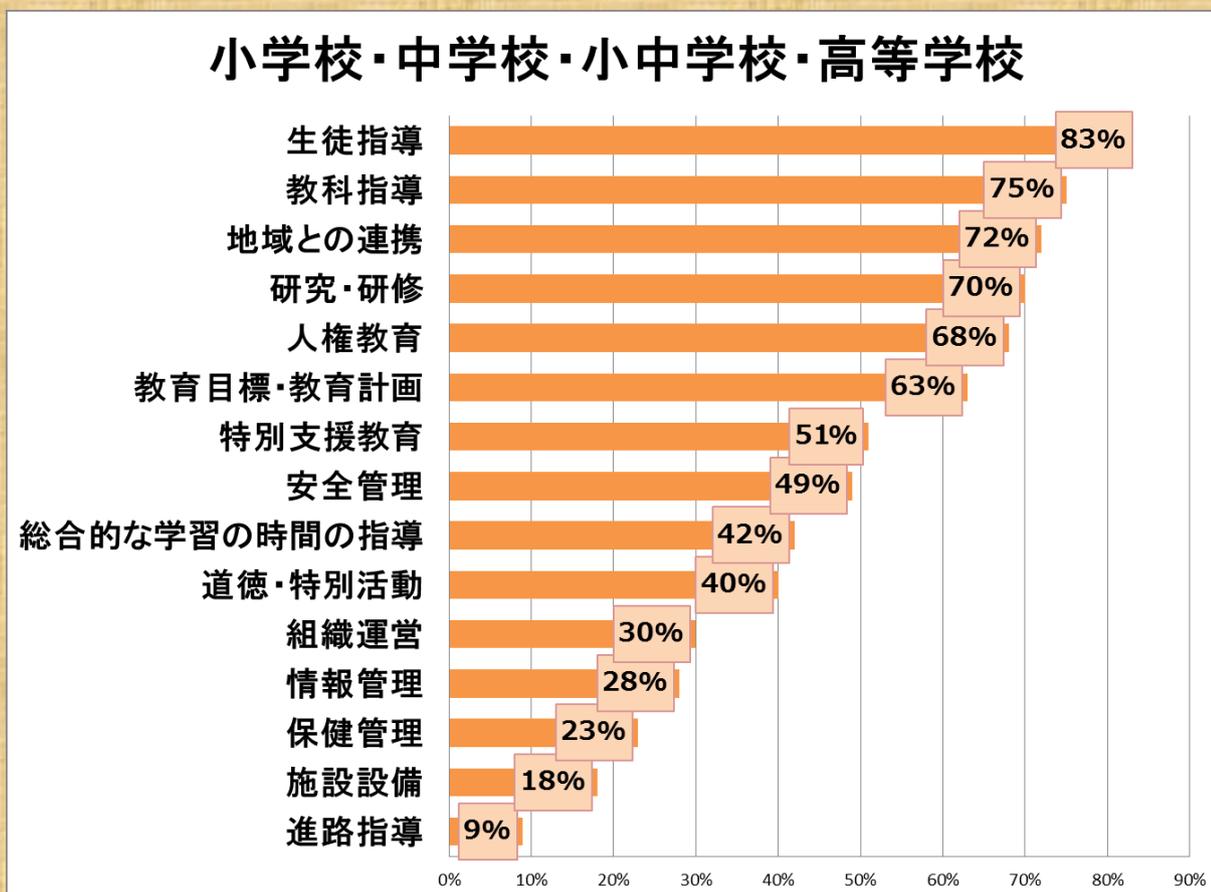
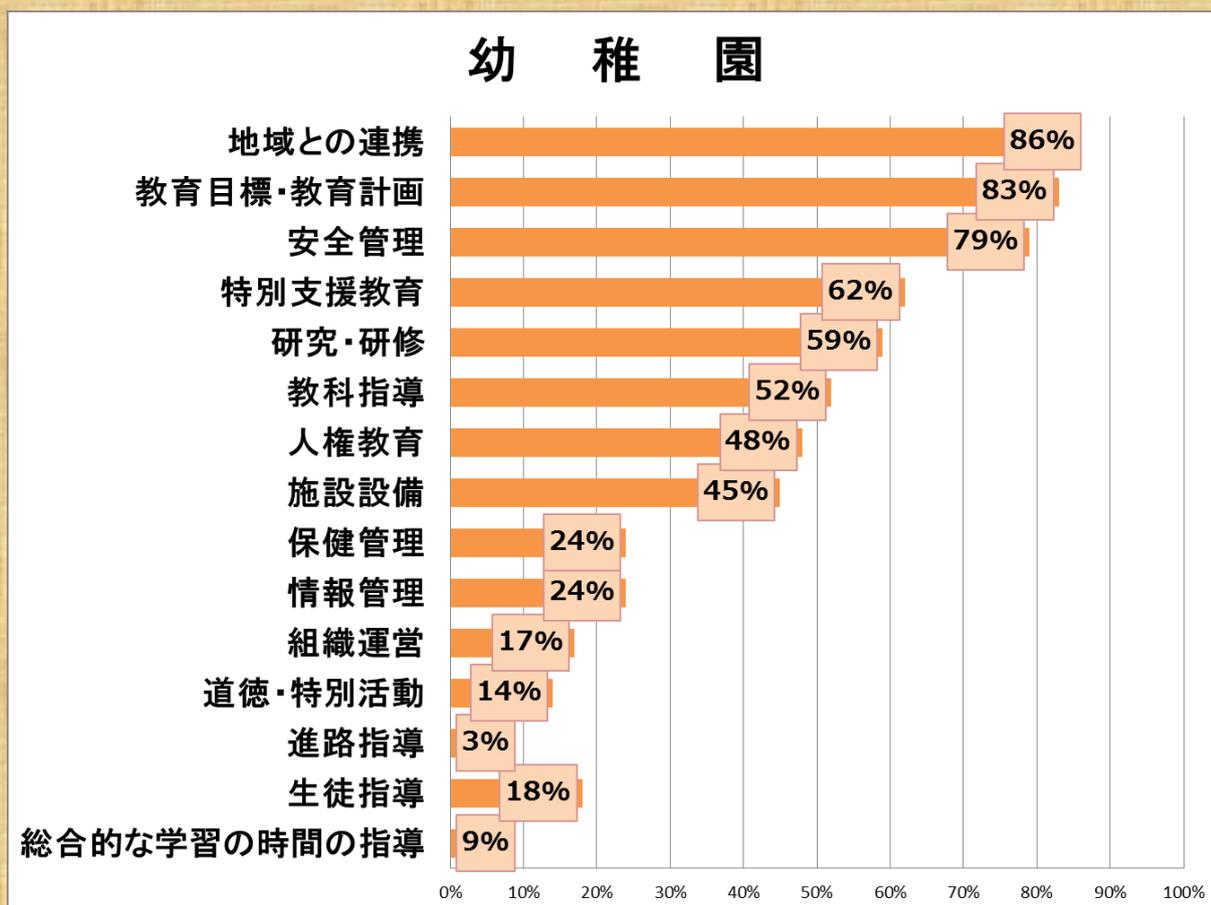
### 【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	90%	84%	83%	<b>86%</b>
学校評価関係教職員で行っている。	7%	8%	17%	<b>11%</b>
主に担当者が行っている。	3%	8%	0%	<b>4%</b>

### 【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】

	幼稚園	小学校	中高学校	全体
年度末に 1 回実施	48%	18%	50%	<b>39%</b>
年度末以外に 1 回実施	45%	72%	50%	<b>56%</b>
年 2 回（1 学期末、2 学期末）	4%	5%	0%	<b>3%</b>
その他（行事ごと等）	3%	5%	0%	<b>3%</b>

【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】

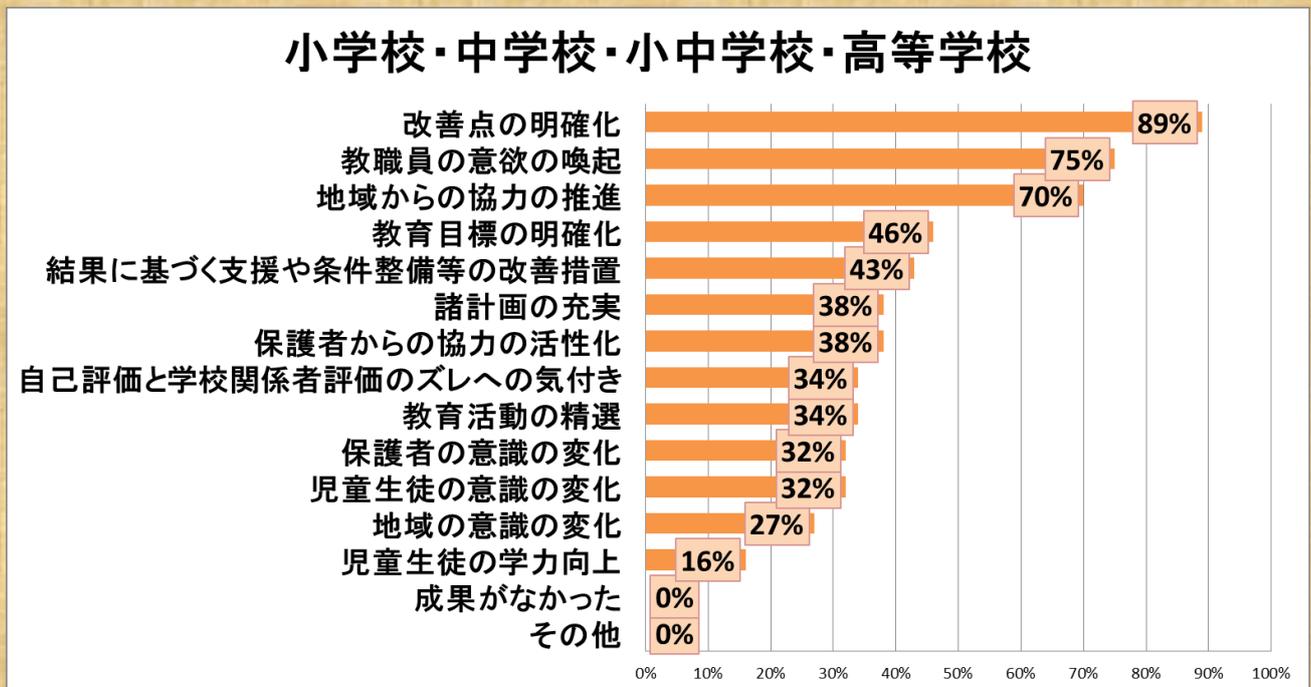
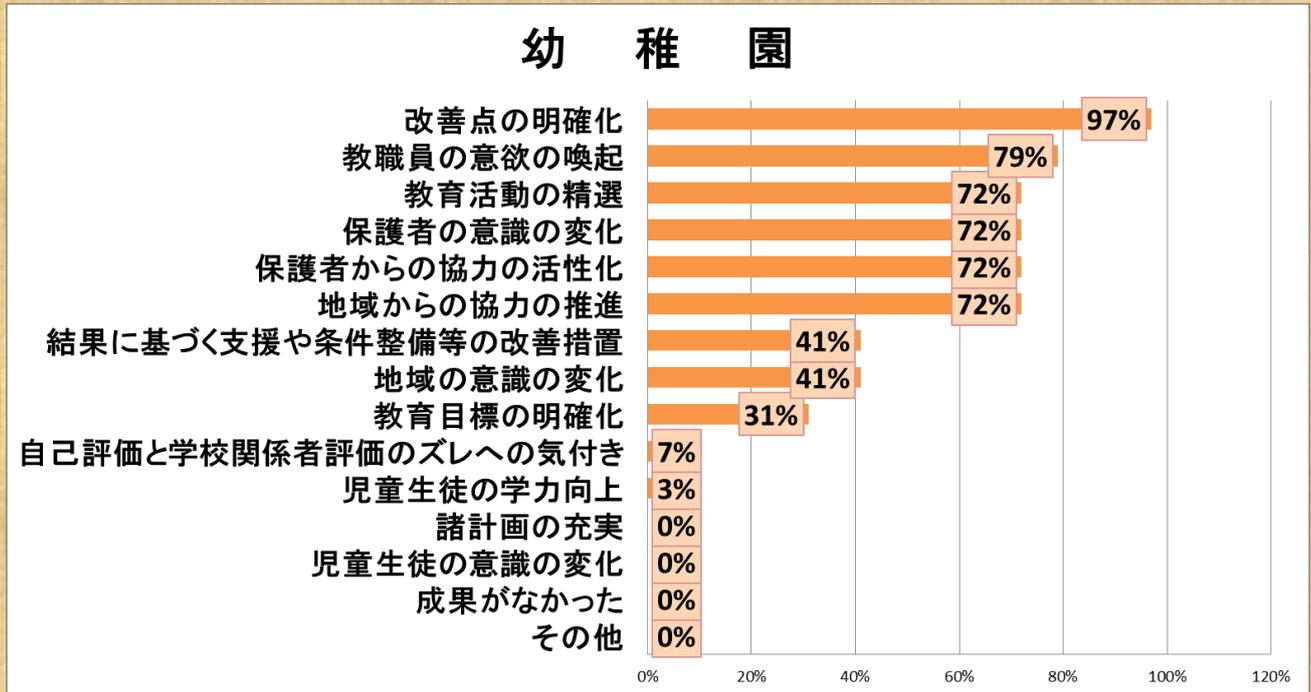


【学校関係者評価の実施について】

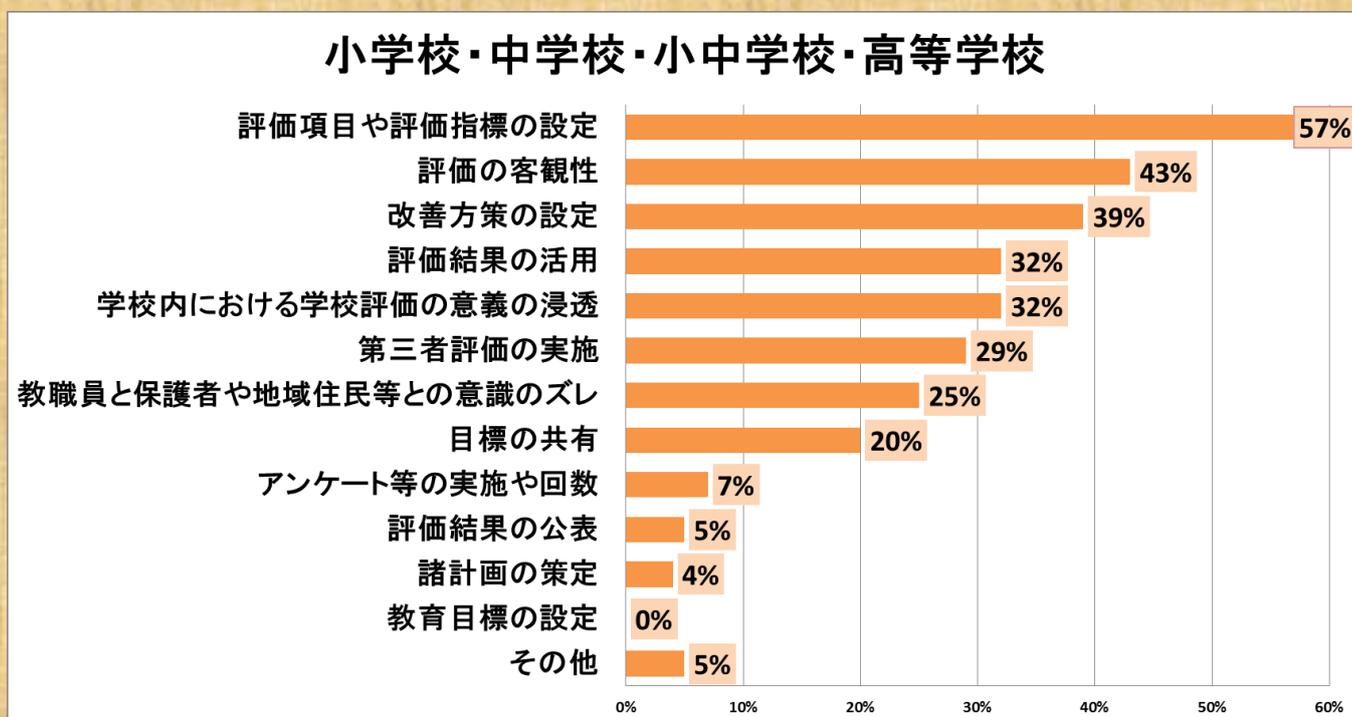
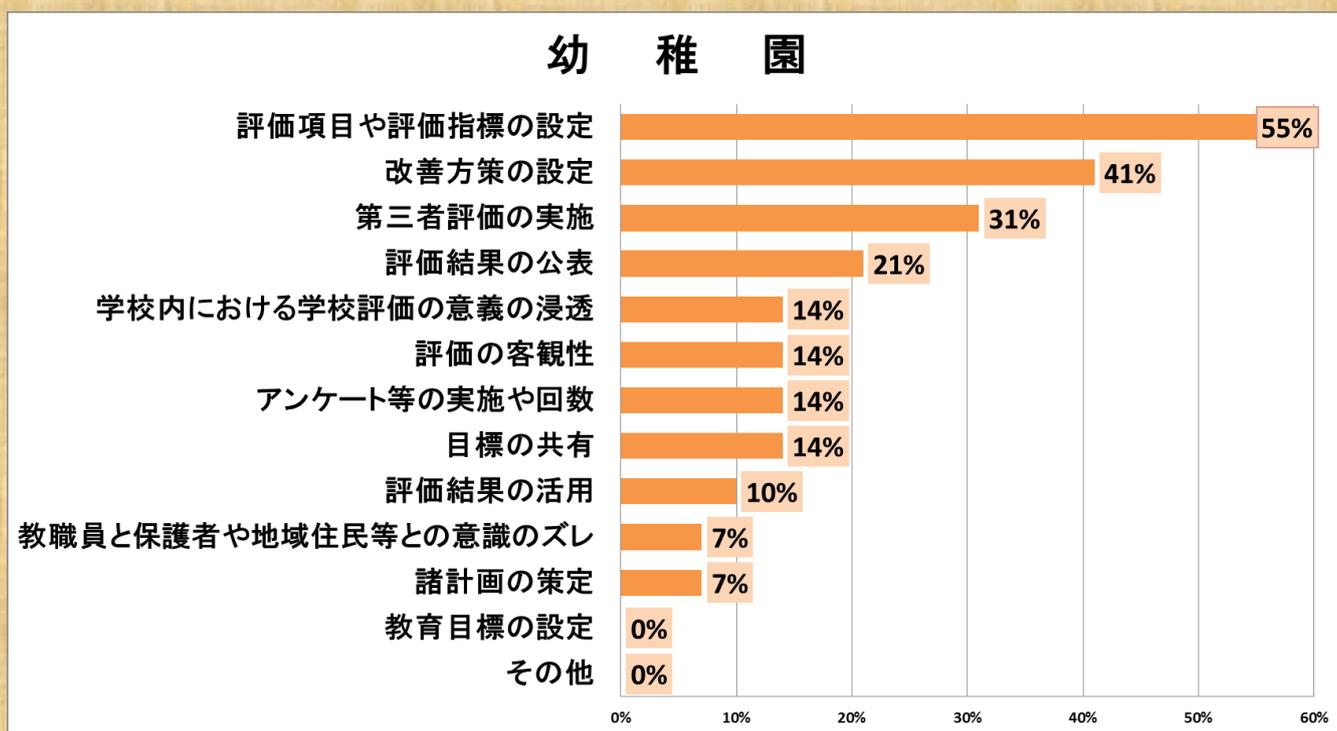
	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	76%	68%	56%	<b>67%</b>
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	93%	87%	72%	<b>84%</b>
評価はアンケート形式で回答を求めている。	66%	53%	44%	<b>54%</b>
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	17%	11%	17%	<b>15%</b>

### 3、学校評価の成果と課題

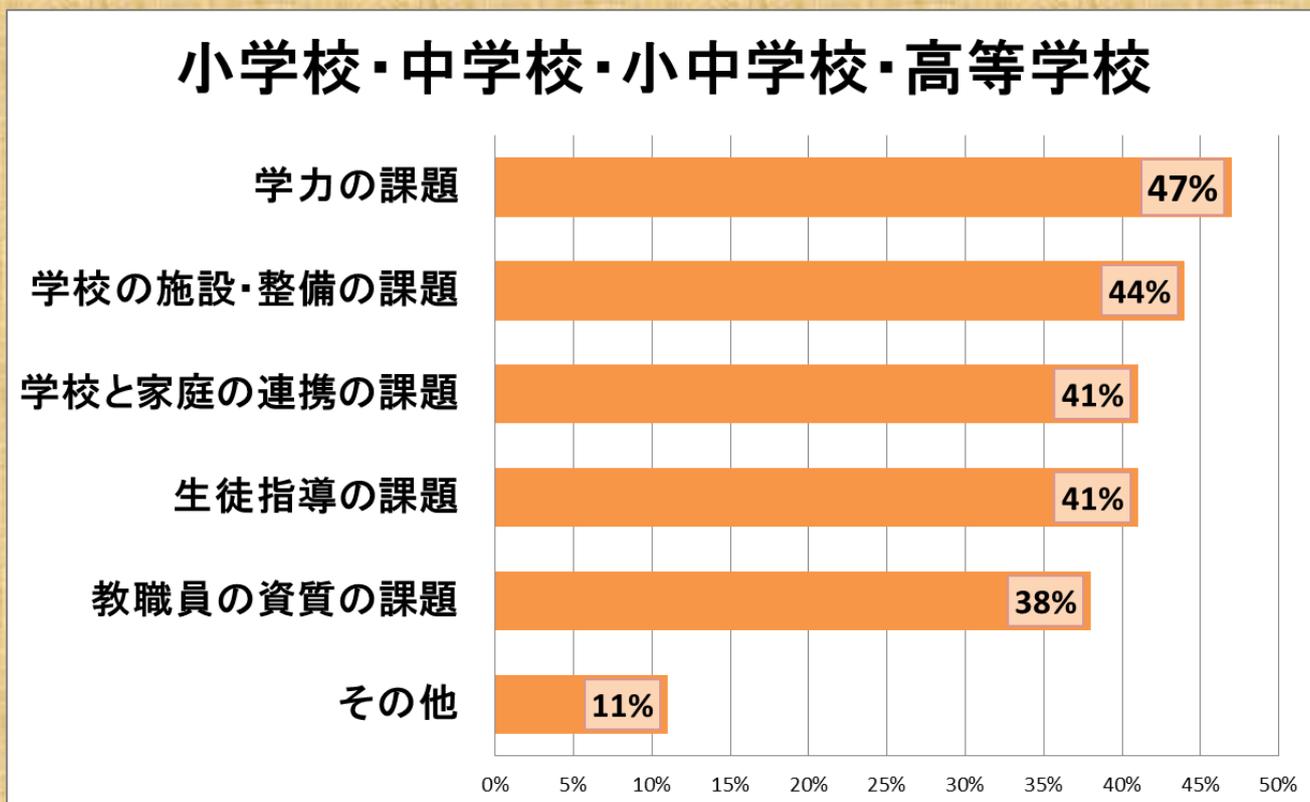
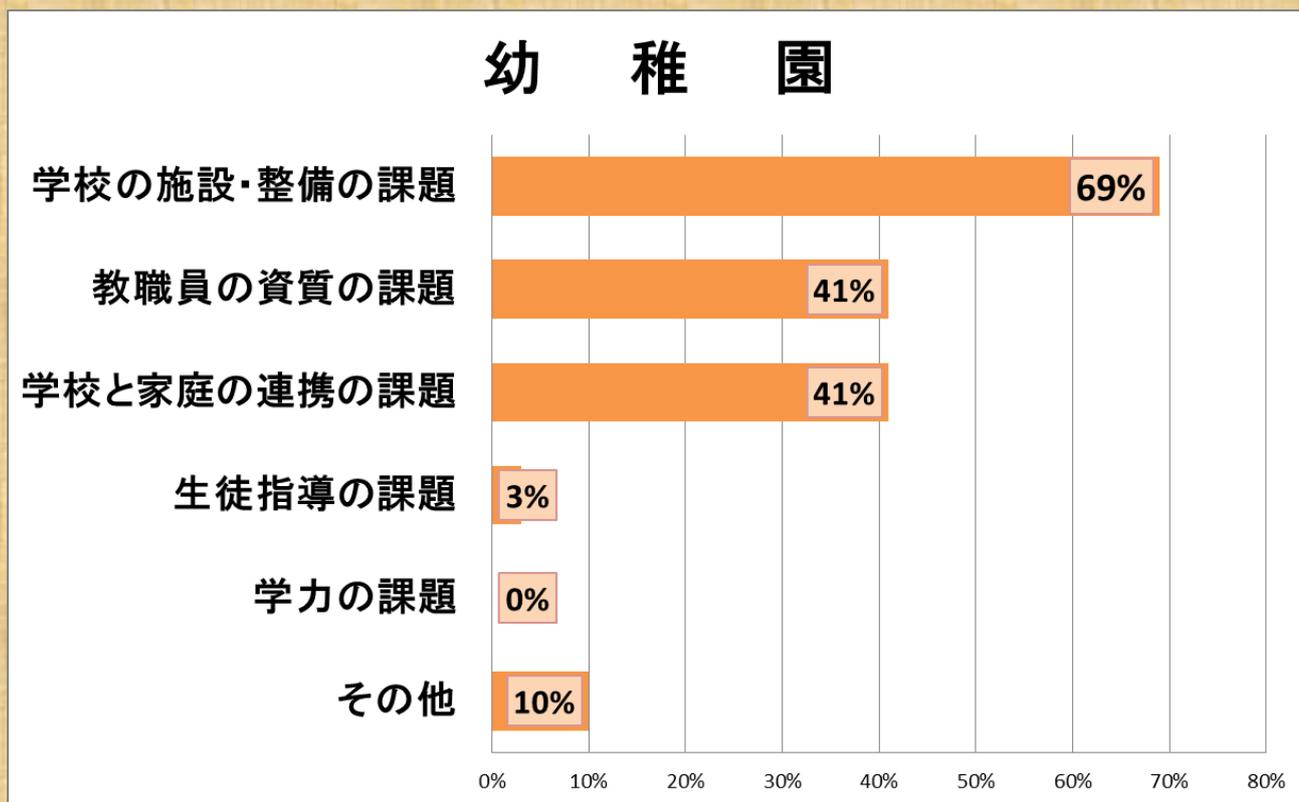
#### 【学校評価を行ったことで得られた成果】



【学校評価をすすめる上での課題】



【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題】



## 【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】

### 〔学校と家庭の連携に関すること〕

- ・学校評価での課題を教職員がどのように受け止め、自らの資質向上につなげるかを研修していく。
- ・学校が重点的に取り組んでいる教育活動を、保護者に評価していただくアンケートの設定を工夫する。
- ・学校や担任から発信するお便りや懇談会を大切に
- する。
- ・家庭教育力の向上を目指し、啓発活動を強化する。
- ・立場の違いを互いに理解し、目標に向かって協力し合う。
- ・子どもの様子や学校での子どもの課題等を伝えるスキルを伸ばすなどの OJT の充実。
- ・児童生徒に関する連絡会の時間確保と迅速な連絡。

### 〔生徒指導に関すること〕

- ・生徒指導の組織強化と児童とふれあう時間の確保。
- ・児童の生活リズムを改善するために、HPを活用して家庭に働きかける。
- ・自尊感情を伸ばし意欲ある学校生活に改善する。
- ・児童生徒に関する連絡会の時間確保と迅速な連絡。
- ・「コツコツ力向上プロジェクト」や「認め合い学習」を取り入れ、自尊感情を高めることにより学習意欲や規範意識を高めようと取り組んでいる。
- ・家庭環境を背景として学校生活に順応できにくい児童に、地域も共に見守っていただき自己肯定感向上につないでいきたい。
- ・いじめ、人権学習、人権講演会等の実施。
- ・家庭生活の手引きをつくる。

### 〔学力に関すること〕

- ・授業改善と学力補充の方法研修
- ・低学力傾向の解除を目指し、低学年から高学年まで意欲が続く指導法の研究。表現したり、意図を汲み取ったりできる生きる力の育成。
- ・基礎的・基本的な学力の補充を全校的に実施する。
- ・研究授業を通して、生徒指導の事例を共有して、日々の気づきを常に伝えることを通して教員力のレベルアップを図る。意識の向上を図る。
- ・基礎学力・それを活用する能力を向上させるため地道に継続的な取組が必要。
- ・基礎基本の学力を定着させるために、繰り返しの指導と、自主的な学習の習慣づけ。
- ・「学力向上デー」を設けているが、学年に応じた効果的な取組を検討する。
- ・読書習慣を身につける。
- ・低学力傾向の児童への補習。
- ・学年により、多少の違いがあるが、学力の二極化があるため、課題を共通理解するとともに、基礎学力の定着に向け、支援の方法などについて検討する。
- ・スピーチ力を高める取り組み。
- ・家庭学習の手引きをつくる。

### 〔施設・整備に関すること〕

- ・一つ一つの教育活動に対しての丁寧な説明。
- ・環境整備にボランティアの力を借りる。
- ・避難場所ともなる施設である故、こまめに点検・修繕していく。
- ・施設設備の安全と環境整備の充実を図る。
- ・講堂など耐震工事未対応の施設およびICT化を進める。

## 4、学校評価と学校ビジョン

### 【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- ・教育活動の基盤となる「質の高いなかまづくりと学級経営」をビジョンに位置付ける。
- ・ビジョンに描かれたものをいかに具体化して展開するかについて検討していく。
- ・学校ビジョンの柱である今日が楽しく明日が待ち遠しい学校づくりをめざし、教育は人なりを肝に銘じ、教職員の資質向上に向けた取組を進めていく。
- ・地域と学校との連携については、地域懇談会や各行事を通して継続的に取り組んでいく。教職員の資質向上に関しては、組織的に教職員間の連携を高めていける工夫を行う。
- ・体力不足の現状から、体力作りに関する内容を入れる。また、小中一貫教育に関して、具体的な取組内容を加筆する。そして、地域力を学校運営に取り組める内容を加筆する。
- ・学力向上のための方策の学校全体での徹底。
- ・本校の実態をもう一度見直し、全員で目標に向かっていけるようなものにしていく。
- ・アクティブラーニング等で求められている、子どもたちにとって魅力的な自主的・主体的な活動の充実を学校の教育活動を横断的に進めることを目指したビジョンに改善したい。
- ・ホームページの充実について、ICT機器の活用の様子や学校行事の様子等を紹介し、新しい帯解小学校のよさを示していくよう改善する。
- ・児童の力量を高め、地域を誇りに思う児童を育てるため、教職員も力を付けるための研修を行う。また、英会話科の充実や中学校との交流活動を増やし、強化していく。
- ・いじめ問題や友だちとのトラブルに対する保護者の心配に対して、学校や学級を理解していただき協力いただけるように、学校だより・学級だより・こまめな家庭との連絡、懇談会の充実などを推し進める。見直しではなくビジョン推進を強化していく。
- ・生徒指導、人権教育に重点をおき心の教育の充実と組織的な実施に力を入れ確かな規範意識を養い、秩序のある学校構築を目指す。
- ・小中一貫教育をさらに推進させるために、中学校区で具体的な取組を実施し、積極的に広報する。
- ・小中一貫教育の視点に立ち、9年間を見据えた計画・活動に努める。また、若手教員の指導力・資質の向上が学校経営の重要課題である。ベテラン教員からの引継ぎを意図的・計画的に行っていく必要がある。
- ・授業力の研修を充実させ、児童の自尊感情と学力を共に向上させる取組を強化する。
- ・小中一貫教育を見据えて、小中の教育内容の連続性を意識し授業力の向上を図る。
- ・教員一人一人が、授業中での「言語活動」を大切にし、生徒に考えさせる機会や発表させる機会をより多く与えるようにしなければならないと感じる。次年度は、「研究主題」を見直したいと考えている。
- ・指導面に偏りがちであった学校体制及び教職員の意識を支援面に広げ、学習・生活両面に於いて指導と支援をバランスよく実施できる組織づくり